

# 総務常任委員会

## (所管事務調査)

- ・ 地域公共交通について

令和8年2月12日  
企画財政部

# 1 北海道中央バス(株)に係る運行の見直しについて

## ▶ 乗務員不足の現状

- ・乗務員不足により路線・ダイヤの維持が全社的に困難となっている
- ・札幌などの都市部においても、黒字路線を含めた減便が進められている

### 岩見沢営業所の状況

- ・採用があっても、乗務員の高齢化や退職により欠員が続いている

便数の削減は避けられない状況 ➡ 減便または廃止



## ▶ 運行体制見直しの申し入れ

### 乗務員不足の解消に向けた見直し

- 廃止 利用が少なく、運行効率の悪い長大路線の廃止

- ・市内線 幌向線
- ・郊外線 岩見沢美唄線・岩見沢長沼線

令和8年9月末

- 減便 令和8年のダイヤ改正の中で実施が見込まれる  
(具体的内容は他地区を含めて、社内で調整中)

# 1 中央バスに係る運行の見直しについて

## 幌向線

- ▶便数 平日：往路4便/復路4便  
休日：往路2便/復路3便

- ▶路線 岩見沢ターミナル→南4条つくし公園



- ▶利用人数 1便あたり6.7人

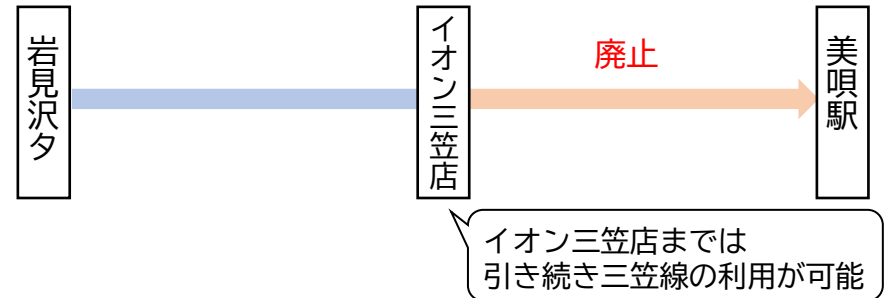
- ▶市補助額 令和6年度 約840万円（赤字額 約840万円）

**廃止後の対応** 幌向地区内の代替交通について別途検討  
(地域と協議中)

## 岩見沢美唄線

- ▶便数 往路4便/復路5便

- ▶路線 岩見沢ターミナル→美唄駅



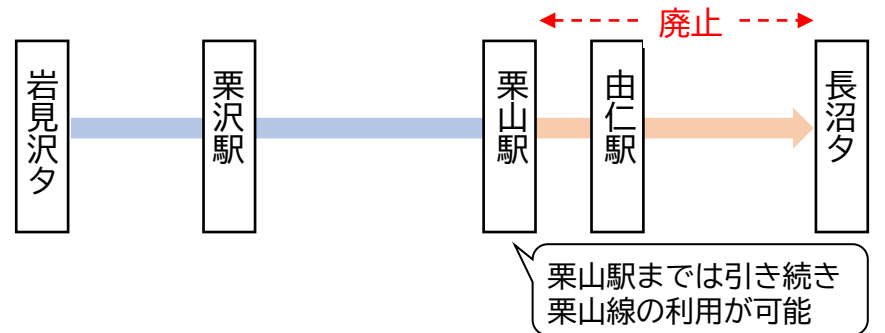
- ▶利用人数 1便あたり13.6人

- ▶市補助額 令和6年度 約260万円（赤字額 約2,022万円）

## 岩見沢長沼線

- ▶便数 往路5便/復路5便

- ▶路線 岩見沢ターミナル→長沼ターミナル



- ▶利用人数 1便あたり17.4人

- ▶市補助額 令和6年度 約510万円（赤字額 約4,314万円）

## 2 岩見沢市地域公共交通計画について

## 2 地域公共交通計画について ①経過・現計画施策

### 地域公共交通計画とは

「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」（平成19年法律第59号）に基づき、岩見沢市の地域公共交通におけるマスタープランとして策定するものであり、限られたリソースを最大限活用して、面的ネットワークを確保していくための目標や施策を定めた計画

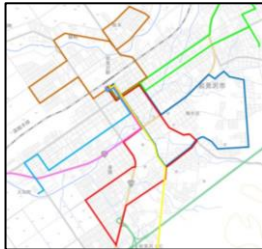

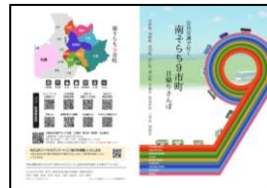





### (1) 地域公共交通計画について

年月	計画名
令和3年6月	現計画：岩見沢市地域公共交通計画 計画期間 令和3年度～令和7年度
令和6年3月	関連計画：南空知地域公共交通計画（北海道） 計画期間 令和6年度～令和10年度



区分	具体的取組み
現計画策定前	H29.10 バス路線の再編
	H30.4 デマンド型乗合タクシー運行開始
策定後	R4.4 東部丘陵線コミュニティバス運行開始
	R7.4 岩見沢月形線運行開始

### (2) 現計画施策の実施状況

基本方針	主な取組内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶【基本方針1】 まちの活力を支える公共交通</li> <li>▶【基本方針2】 暮らしを支える公共交通</li> <li>▶【基本方針3】 誰もが利用しやすく効率的な公共交通</li> <li>▶【基本方針4】 みんなで守る公共交通</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセスの確保 </li> <li>・総合時刻表の作成 </li> <li>・定住自立圏の取組み (モデルコースを掲載したパンフレット配布)  </li> <li>・デマンド型乗合タクシー、東部丘陵線の運行  </li> <li>・バスの絵募集キャンペーン実施  </li> </ul>

## 2 地域公共交通計画について ②現計画評価

### (1) 現計画の評価

- 計画において評価指標（KPI）の設定が義務づけられている
- 計画策定時（R3）はコロナ禍であったため、その後の回復を見込んだ目標値を設定

No	指標	適用	基準値	実績（R6）	目標値（R7）		
1	公共交通施策に対する市民の満足度	市の交通施策に対する総合的な満足度（総合計画共通指標）	12.0% (H30)	10.2%	20.0%		
2	公共交通を利用する市民の割合	通勤、通学、買い物、通院等で公共交通機関を利用している市民の割合（総合計画共通指標）	26.0% (H30)	<b>26.9%</b>	30.0%		
3	JR利用者数	JR岩見沢駅における1日あたりの乗降者数（総合計画共通指標）	9,400人 (H30)	7,510人 ※R5実績	9,400人		
4	JR室蘭線市内輸送密度	JR室蘭線の市内駅間（栗丘～岩見沢）の輸送密度	721人 (R1)	516人	721人		
5	市内線路線バス利用者数	路線バス市内線に乗車した人数（1乗車を1人として計上、総合計画共通指標）	85万人 (R1)	54万人	85万人		
6	市内線路線バス収支率	路線バス市内線の運行経費総額に対する収入総額（運賃、その他収入等）の割合	65.2% (R1)	<b>66.7%</b>	75.0%		
7	路線バス中心市街地及び周辺の乗降数	中心市街地と周辺地域の路線バスのバス停の乗降者数	往路	乗車	1,834人	1,028人	1,834人
				降車	160人	124人	360人
			復路	乗車	186人	95人	390人
				降車	1,946人	1,073人	1,946人
8	デマンド型乗合タクシー平均乗車人員	デマンド型乗合タクシー1便あたりの平均乗車人員	1.26人 (R2)	1.24人	1.50人		

# 2 地域公共交通計画について ③新計画

## (1) 新計画の構成

現計画をベースに、アンケートや乗降調査  
路線ごとの収支状況を踏まえ見直し

### 1. 計画の概要

- ・計画の趣旨
- ・対象区間 岩見沢市全域
- ・計画期間 令和8年度～令和12年度（5年間）
- ・関連計画との整合 南空知地域公共交通計画等

### 2. 公共交通の将来像

- ・これまでの経過
- ・地域交通の現状診断
- ・目指す姿
- ・各交通手段の役割と方向性

### 3. 計画目標と施策内容

- ・4つの基本目標と具体的な施策

### 4. 評価指標（KPI）

- ・評価指標（KPI）

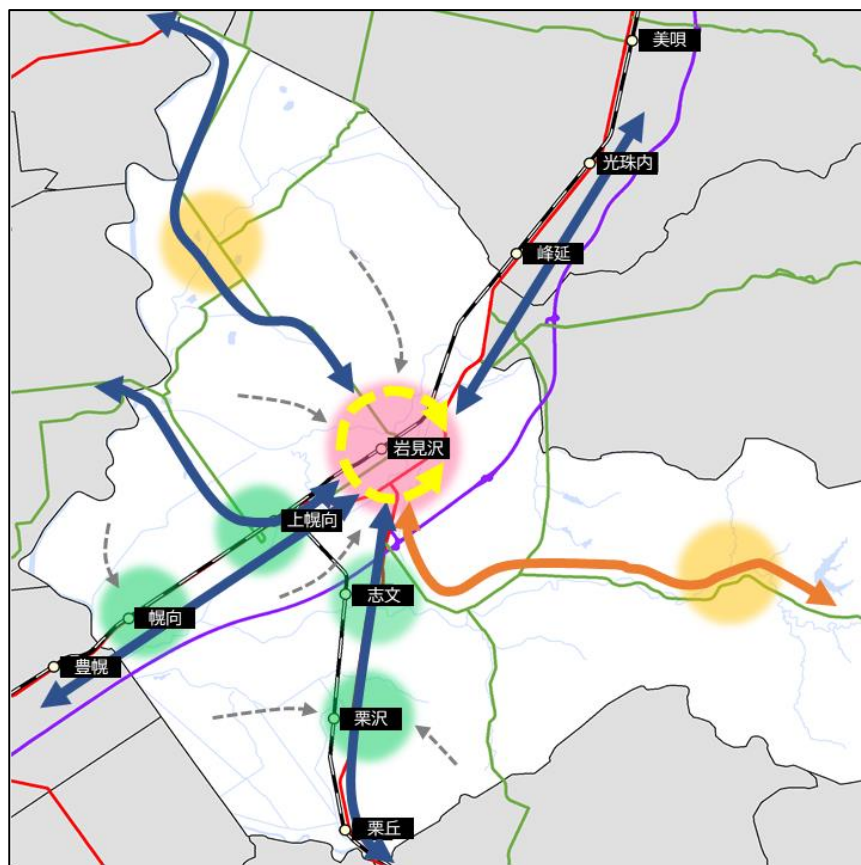
### 5. 計画の進捗管理と評価の考え方

- ・施策評価の方法
- ・評価体制

### 目指す姿

- ・市内の主要な居住地と中心拠点を結ぶ公共交通ネットワークを形成する。
- ・住民・行政・交通事業者が連携して持続性と利便性のバランスを図る。
- ・都市機能が効果的に結ばれたまちづくりと一体となった公共交通を確保する。

## (2) 維持していく交通の考え方（イメージ）・各路線バスの方向性



●凡例	
	岩見沢市都市計画マスタープランにおける都市拠点
	岩見沢市都市計画マスタープランにおける地域拠点及び生活拠点
	上記以外で居住機能と日常生活機能が集積した地域
	【広域交通】 都市拠点と各拠点を結ぶ交通
	【コミュニティ交通】 広域交通がない拠点と都市拠点を結ぶ交通
	【デマンド交通】 農村部と都市拠点を結ぶ交通 地域拠点内の移動を支える交通
	【まちなか生活交通】 都市拠点と周辺住宅地を結ぶ交通

	路線	方向性
市内線	日の出台・栄町循環線／かえで団地循環線 鉄北循環線／南町・春日循環線	○維持（国補助有）
	大和線／いわみざわ公園線	○維持
	幌向線	※廃止
	東部丘陵線（日の出交通）	○維持（国補助有）
	住民混乗バス（北村地区：市営）	△見直し
郊外線	三笠線／岩見沢栗山線 岩見沢月形線（アオヤナギ観光）／北新線（新篠津交通）	○維持（国補助有）
	岩見沢美唄線／岩見沢長沼線	※廃止

### (3) 計画目標と施策内容

人口減少や乗務員不足など、公共交通を取り巻く環境が厳しさを増す中で、限られたリソースを有効に活用し「目指す姿」を実現するため、4つの基本目標を設定

#### 基本目標1 まちの賑わいと地域の暮らしをつなぐ公共交通

中心市街地と各地域を結び、日常的な移動を支えることで、地域の暮らしとまちの活性化の両立に取り組みます。

#### 基本目標2 暮らしを支え続ける公共交通

市民の暮らしを支える移動手段として、地域の特性や利用状況に応じた運行体制の確保を図り、安定的で持続可能な公共交通の維持を目指します。

#### 基本目標3 安心して利用できる公共交通環境の整備

免許を持たない高齢者や学生をはじめ、誰もが安心して利用できるよう運行の安定化に向けた取組みと、わかりやすい利用案内の充実を進め、利用しやすい環境づくりを図ります。

#### 基本目標4 地域で支える公共交通

公共交通を地域の共有資源として、市民・関係機関との協働を通じて意識の醸成と利用促進を図り、持続的に支え合う仕組みづくりを進めます。

## 2 地域公共交通計画について ③新計画

### (4) 評価指標

No.	指標	現計画と比較	適用			現状値	目標値 (令和12年度)
1	公共交通施策に対する市民の満足度	継続	市の交通施策に対する総合的な満足度 (総合計画共通指標)			10.2% (令和6年度)	10.2%
2	公共交通を利用する市民の割合	継続	通勤、通学、買い物、通院などで公共交通機関を利用している市民の割合 (総合計画共通指標)			26.9% (令和6年度)	26.9%
3	J R利用者数	継続	JR岩見沢駅における1日あたりの乗降者数(総合計画共通指標)			7,510人 (令和5年度)	7,510人
4	1便あたりの市内線路線バスの平均利用者数	見直し	路線バス市内線に乗車した人数を便数で按分した指標			13.6人/便 (令和6補助年度)	13.6人/便
5	路線バス中心市街地及び周辺の乗降数	継続	中心市街地と周辺地域の路線バスのバス停の乗降者数	往路	乗車	1,028人 (令和6年度)	780人
					降車	124人 (令和6年度)	100人
				復路	乗車	95人 (令和6年度)	80人
					降車	1,073人 (令和6年度)	810人
6	人口1万人当たりの市内を運行する定時便数	新規	J R・高速バス・路線バスの市内を定期的に運行する公共交通の便数を人口で按分した指標			62.9便/万人 (令和7年度)	62.9便/万人

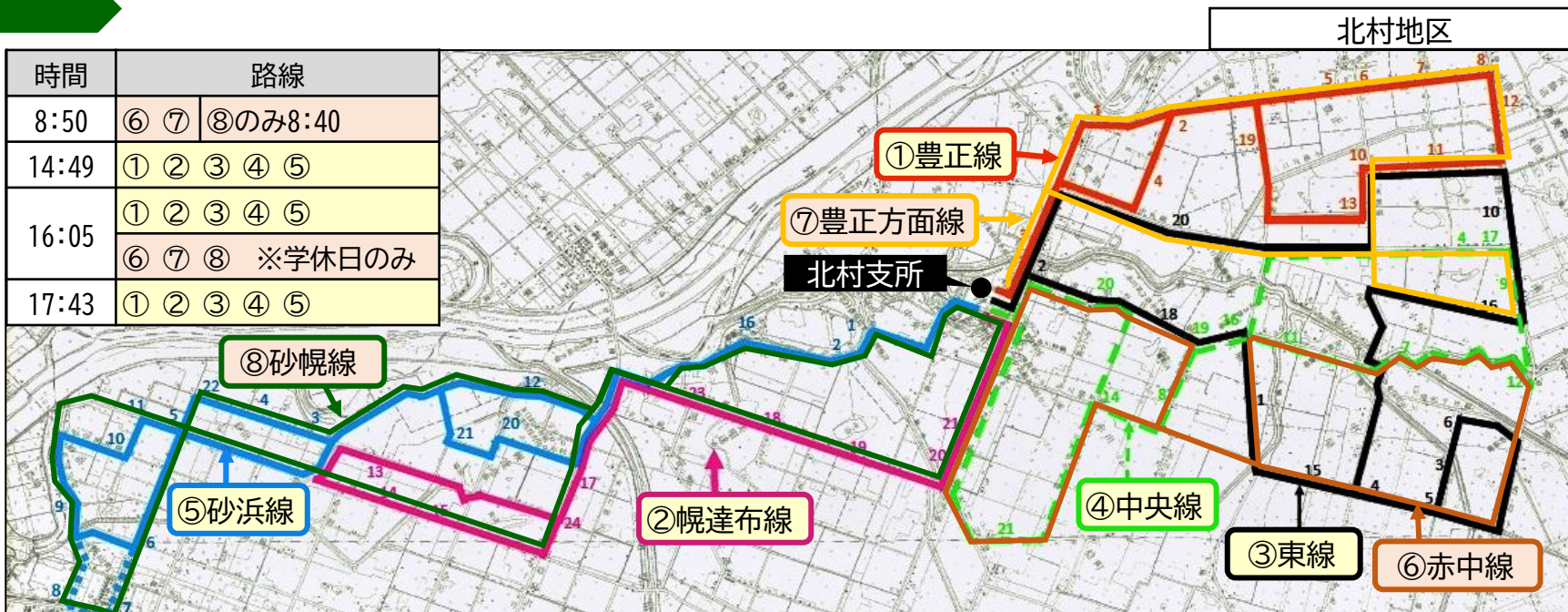
# 2 地域公共交通計画について ④北村住民混乗バス

## 1 概要・路線図

### 【概要】

- ・平成9年4月開始
- ・便数（8路線計）  
18便/日（平日）  
21便/日（学休日）
- ・市負担額  
令和6年度 約760万円  
（スクールバス除く）

時間	路線
8:50	⑥ ⑦ ⑧のみ8:40
14:49	① ② ③ ④ ⑤
16:05	① ② ③ ④ ⑤
	⑥ ⑦ ⑧ ※学休日のみ
17:43	① ② ③ ④ ⑤



## 2 実績（R6年度）スクールバス除く

No.	路線	運行便数	運行日数	乗車人数 (年間)	1日平均 乗車人数	1日・1便平均 乗車人数
①	豊正線	3	206	54	0.26	0.09
②	幌達布線	3	206	61	0.30	0.10
③	東線	3	206	84	0.41	0.14
④	中央線	3	206	166	0.81	0.27
⑤	砂浜線	3	206	304	1.48	0.49
⑥	赤中線	1	293	200	0.68	0.68
		1	89	28	0.31	0.31
⑦	豊正方面線	1	293	66	0.23	0.23
		1	89	5	0.06	0.06
⑧	砂幌線	1	293	310	1.06	1.06
		1	89	70	0.79	0.79
合計		21	2,176	1,348	6.37	0.30

【参考】H26：6,480人

## 3 見直しについて

### 利用者の大幅な減少

平成26年度 年間 6,480人  
令和6年度 1,348人

現状の運行体制に対する  
ニーズの低下

### 計画における方向性

地域のニーズを踏まえ  
より持続的で効果的な交通体系の検討が必要

### 主な 検討ポイント

- ・交通空白地域を生まないという考え方は堅持
- ・運行コストの圧縮
- ・受益者負担の検討